

第3回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 ワークショップ 概要書

ワークショップ名	<p>実践してみよう！専門職連携(IPW)</p> <p>－ “あれっインスリン何単位だっけ？はて今日打ったっけ？ “</p> <p>認知症を持つ独居高齢者をいかに地域で支えられるか－</p>
----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------

開催の目的	<p>IPW(Interprofessional Work) (専門職連携) は現在、医療、福祉におけるニーズの多様化、医療技術の高度化、専門化を背景により一層、実践が求められています。</p> <p>本ワークショップでは、IPW の基本を学び、概要にある複雑で困難な症例に対して多様な専門職がいかに連携していくかを、グループワークを通して経験していただき、皆さんが住んでいる地域で IPW を実践できる考え方、スキルを取得することを目標にします。多職種が参加できるセッションです。</p> <p>※ここでいう専門職は医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、ケアマネージャー、ソーシャルワーカー 介護福祉士等、保健医療福祉の分野で働いているすべての人を意味します。</p> <p>企画責任者 泉京子 (勤医協月寒ファミリークリニック GPMEC)</p> <p>講師 寺田豊 (北海道勤医協家庭医療センター GPMEC)</p> <p>青柳真弓・小林由佳・椎名江利子・梅前ちひろ (勤医協月寒ファミリークリニック看護師)</p>
対象	□その他 (医療 保険 福祉に携わる専門職 (上記参照) 学生も可能)
定員	定員：30名 ※机の配置は全て島組 (6人/1島)
講師名	<p>司会 泉京子 (北海道勤医協家庭医療センター勤医協月寒ファミリークリニック)</p> <p>レクチャー 寺田豊 (北海道勤医協家庭医療センター勤医協月寒ファミリークリニック)</p> <p>グループワーク 小林由佳 (北海道勤医協家庭医療センター勤医協月寒ファミリークリニック)</p> <p>青柳真弓 (北海道勤医協家庭医療センター勤医協月寒ファミリークリニック)</p> <p>椎名江利子 (北海道勤医協家庭医療センター勤医協月寒ファミリークリニック)</p>
概要	<p>長年インスリンを打ってきた独居の高齢患者が、認知症によりインスリンを毎日打てなくなってしまった。薬も飲めない。いろいろなサービスを導入しようとしても拒否。家族に頼んでも……。だけど住み慣れた家にはいたい。さてあなたならこの方を担当したらどうしますか？あなたの立場なら……。もう家に住めないから施設、入院？この人が地域で暮らせる方法ってないのでしょうか？</p> <p>当日はこの症例について多職 (専門職) 種連携 (IPW) の基本に準じて、ワークショップ形式でディスカッションを行います。</p> <p>そして実際我々が患者について行った様々な取り組み、チーム (IPW) の意味を経過に基づいて紹介します。</p>